



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2023年04月10日 第1113号「週刊五十嵐レポート」

賃上げしました

首相官邸のホームページにこう書かれている。

「人への分配は、『コスト』ではなく、未来への『投資』です。官と民が、共に役割を果たすことで、成長の果実をしっかりと分配し、消費を喚起することで、次の成長につながります。これこそが、持続可能な経済、そして、成長と分配の好循環による新しい資本主義を実現するための要です」。

「成長の果実を、従業員に分配する。そして、未来への投資である賃上げが原動力となって、更なる成長につながる。こうした好循環を作ります。公的価格の引き上げ、賃上げ税制に加え、原油や原材料価格が上昇する中、中小企業等が適切に価格転嫁を行えるよう、環境整備を進めます」。

連日新聞紙上には上場企業の優良企業が順次賃上げのニュースが伝わってくる。一方、中小企業でも「賃上げ」したという声も聞こえてくる。前号(第1112号)で「大工半減」の記事について書いた。ある工務店後継者は、「今後も大工を採用、育成していくには、給料を上げることと休みを取らせること。この2点」(大工減少の一つは建設業界平均年収が下回っていること)。

中国古典「韓非子」では、「人間を動かしている動機は何か。愛情でもない、思いやりでもない、義理でも人情でもない、ただ一つ、利益である。人間は利益によって動く動物である」と。

ある中小製造業者も賃上げをした。賃上げするには原資が必要。それは「粗利益」。他社より有利に粗利益の補給源を確保していないと他社より経常利益は多く出せない。つまり、賃上げができない。他社より有利な粗利益を確保できることとは何か。強い商品を持つ、強い営業地域を持つ、強い客層を持つと効率上昇により収益力が高まり(労働生産性向上)、賃金増となる。

人手不足業界の話。従業員は当初、人を採用しないと仕事ができないと言った。しかし、営業地域を狭め、そこで顧客作りを集中し、地域外は営業しない方針にした。結果、移動時間が短縮され(経費削減)、現在の人員だけで顧客が増え(売上増・利益増)、尚且つ人員に余力(成長力)が生まれた。小さな会社でも有利に粗利益を補給できる所は賃上げができることが判明。

ちょっと
気になる出来事

4月7日付日経新聞、「3メガ新卒採用8年ぶり拡大」という記事。

3メガバンクの2024年入行の採用計画は合計約1200人強で23年比で1割増える。データ分析などの専門コースの採用を3倍超にする。

記事のグラフを見ると、2011年3メガ(みずほ、三井住、三菱UFJ)の新卒採用は2000人強、2016年5000人強、2024年1200人強と、ライフサイクル曲線で見ると、メガバンクの趨勢は衰退期に入っている。

記事では、金融取引のデジタル化や規制緩和による業務範囲の拡大で、銀行を取り巻く環境は大きく変わった。デジタルや膨大なデータ活用など専門的な知識やスキルを持つ人材を増やして事業の幅を広げる必要性が強まる。

4月6日付帝国データバンク、「28%がネット銀行利用」の調査発表。全国企業のメインバンクについて都市銀行は減少傾向である一方ネット銀行は大幅なシェア拡大を継続。創業「5年未満」企業の43.6%、「5年以上10年未満」の38.8%、「10年以上20年未満」の3割台がネット銀行と取引。

確かに、今起業したら、ネット銀行でいい。



一口メモ
知識

いたずらに凶を忌(い)み、脅(おび)えない

吉凶(きつきょう)とはその失得(しつとく)なり。

吉は良い事が起き、凶は悪い事が起きるとするのが一般の解釈だが、吉凶を受動的にとらえると、時の変化に翻弄される。

吉とは正しい道を得る、凶は正しい道を失うこと。

春に種を蒔けば実りを得るし、冬に種を蒔けば実りを失うということだ。結果を得るか失うかという能動的視点に立ち、

対処を探究して努力邁進するならば、

「禍(わざわい)を転じて福と為す」道も見出せる。

易経を学んだ人々は、「いたずらに凶を忌み、脅えなくなった」という。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

